

令和5年度農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表

都道府県名: 埼玉県

農業委員会名: 小川町農業委員会

I 農業委員会の状況(令和5年4月1日現在)

※「I 農業委員会の現況」については、別紙様式1の内容を転記

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 R4 年 4 月 1 日

任期満了年月日 R7 年 3 月 31 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	14	14
認定農業者	—	8
認定農業者に準ずる者	—	2
女性	—	4
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	9	9	4

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	714
農業経営体数	266

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	274
女性	76
40代以下	21

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	50
基本構想水準到達者	21
認定新規就農者	2
農業参入法人	6
集落営農経営	1
特定農業団体	0
集落営農組織	1

※農業委員会調べ

単位:ha

耕地面積	畑				計
	田	普通畑	樹園地	牧草畑	
	239	394	-	-	633

II 最適化活動の実施状況

【農業委員会の実績及び点検・評価結果】

※「現状及び課題」及び「目標」については、別紙様式1の内容を転記

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)/(A)
	633 ha	148.40 ha	23.4 %
課題	地域内の分散し錯綜した農地利用、耕作放棄地の増加が農地の効率利用、確保を図る上での課題となっている。担い手が希望する条件に適合する農地が借りられ、経営規模を拡大し、作業効率が上がるよう、より一層農地の利用集積を図る必要がある。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経常局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	12	年度	集積率	50	%
今年度の新規集積面積	21.60	ha	農地面積(C)	633	ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	170.00	ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	26.9	%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

③ 実績

今年度の新規集積面積	31.00	ha	農地面積(F)	633	ha
今年度末の集積面積(累計)(G)	179.40	ha	今年度末の集積率 (H)=(G)/(F)	28.3	%
目標に対する達成状況(H)/(E)	105.4	%			

農業委員会の点検結果	農地法3条の下限面積要件の改正により農地取得のハードルが下がり、新規就農者が増加した。
------------	---

※1 今年度の新規集積面積は、当該年中の集積面積(フロー)を記入

※2 今年度末の集積面積(累計)は、年度末時点の集積面積(ストック)を記入

(2) 遊休農地の発生防止・解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	133.00 ha	36.00 ha	97.00 ha
農業者の高齢化と後継者不足により新たな遊休農地が発生している中で、発生防止と早期発見に努めることが重要であり速やかな指導および担い手等への集積を行う必要がある。			

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	46.40	ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積(C)	9.30	ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消	
令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	41.10 ha
黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	10ha未満の農作業従事者が耕作することが可能な解除条件付き利用権の運用を周知し、遊休農地の発生を防止する。

イ 新規発生遊休農地の解消	
前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	6.00 ha

③実績

ア 既存遊休農地の解消	
a 緑区分の遊休農地の解消	
今年度の緑区分の遊休農地の解消実績面積(D)	5.77 ha
今年度の目標に対する達成状況(D)/C	62.0 %

b 黄区分の遊休農地の解消	
黄区分の遊休農地の解消に向けた工程表の策定状況	工程表の作成はしていないが、今後の地域計画において、遊休農地の解消に向けて地域ごとに検討する。

イ 新規発生遊休農地の解消	
前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消実績面積	4.11 ha

④その他

農地の利用状況調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期		
	令和5年11月～12月		令和6年1月		
1号遊休農地の面積	124.15 ha	うち緑区分の遊休農地	25.90 ha	うち黄区分の遊休農地	98.25 ha
		農地の利用意向調査			
調査実施時期		調査結果取りまとめ時期			
令和6年2月		令和6年3月			

農業委員会の点検結果	全体的には昨年年度に比べ遊休農地が5,77haの農地が解消された結果となった。しかし、谷津や山際の農地については人が入れないほど山林化している状況の農地もあり、改善も含め対応が必要である。
------------	--

(3)新規参入の促進

①現状及び課題						
現状	令和2年度新規参入者		令和3年度新規参入者		令和4年度新規参入者	
	2	経営体	2	経営体	6	経営体
	1.50	ha	1.10	ha	2.80	ha
課題	農業次世代人材投資資金制度のおかげもあり新規就農者は毎年数入すつある。しかし、この新規就農者はほとんど町外の方であり、農地については所有者が高齢などの理由により確保できるが、住居、特に農業用の住居を探すのが困難な状況であるため、町内で新規就農や、富農継続が難しい状況にある。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体に集積した農地面積を記入

②目標						
権利移動面積	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	22.20	ha	28.70	ha	35.10	ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地面積(A)				2.90 ha		

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

③実績

新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表した農地の面積(B)	0.00	ha
公表URL	(その他の公表方法)	
目標に対する達成状況(B)/(A)	0.0	%
(参考)新規参入者の参入状況	参入経営体数	12 経営体
	取得農地面積	1.79 ha

農業委員会の点検結果 下限面積要件の撤廃により新規就農者は増加傾向にある。しかし、この新規就農者のほとんどが小規模経営であり、農家として経営拡大している意向は少ない。農地については所有者の高齢化などの理由により確保できるが、遊休化している場合も多く、農家用の住宅を探すのも困難なため新規就農や営農継続が難しい状況。

※ 参入経営体数は、農地を取得して新たに農業に参入した経営体数を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	6	日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	14	人
			農地利用最適化推進委員の人数	9	人

(2)活動強化月間の設定

①目標

活動強化月間の設定回数	3	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の内容
11月	遊休農地の解消	遊休農地の解消月間として、推進委員等の担当地区ごとに農地パトロールを行い、遊休農地の利用意向の把握と意向に基づく解消活動に取り組む。
12月	遊休農地の解消	遊休農地の解消月間として、推進委員等の担当地区ごとに農地パトロールを行い、遊休農地の利用意向の把握と意向に基づく解消活動に取り組む。
1月	遊休農地の解消	遊休農地の解消月間として、推進委員等の担当地区ごとに農地パトロールを行い、遊休農地の利用意向の把握と意向に基づく解消活動に取り組む。

※1 取組項目は、①農地の集積、②遊休農地の発生防止・解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

②実績

活動強化月間の設定回数	2	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の結果
12月	遊休農地の解消	遊休農地の解消月間として、推進委員等の担当地区ごとに農地パトロールを行い、遊休農地の利用意向の把握と意向に基づく解消活動に取り組んだ。
1月	遊休農地の解消	遊休農地の解消月間として、推進委員等の担当地区ごとに農地パトロールを行い、遊休農地の利用意向の把握と意向に基づく解消活動に取り組んだ。

※ 強化月間の結果欄は、強化月間中に行った具体的な取組の内容とその結果生じた効果等の内容を記入

(3) 新規参入相談会への参加

① 目標

新規参入相談会への参加回数 2 回

開催時期	未定	相談会名	新・農業人フェア
参加者数	1人	開催場所	東京会場
相談会の内容	新規就農に関する相談、農業への就職・転職に関する相談、就農および移住に関する相談、農業の知識技術を学ぶことに関する相談、農業研修に関する相談		
開催時期	未定	相談会名	新・農業人フェア
参加者数	1人	開催場所	東京会場
相談会の内容	新規就農に関する相談、農業への就職・転職に関する相談、就農および移住に関する相談、農業の知識技術を学ぶことに関する相談、農業研修に関する相談		

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加する場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する

② 実績

新規参入相談会への参加回数 1 回

開催時期	令和5年9月30日	相談会名	新・農業人フェア
参加者数	1人	開催場所	サンシャインシティ
相談会の内容	新規就農に関する相談、農業への就職・転職に関する相談、就農および移住に関する相談、農業の知識技術を学ぶことに関する相談、農業研修に関する相談		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加した相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加した新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加した場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する(評価点欄は追加しない)

目標の達成状況の経緯

目標に対して期待を(やや)下回る結果となった。

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語を記入

【推進委員等の点検・評価結果】

評語	推進委員等の人数
目標に対し期待を大幅に上回る結果が得られた	
目標に対し期待を上回る結果が得られた	
目標に対して期待どおりの結果が得られた	
目標に対して期待を(やや)下回る結果となった	23

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語ごとの該当する推進委員等の人数を記入

Ⅲ 事務の実施状況

都道府県名： 埼玉県
 農業委員会名： 小川町農業委員会

1 総会、部会の開催実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考(定例開催以外の理由)
総会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
〇〇部会													
△△部会													

※ 総会又は部会の月ごとの開催回数を記入

2 農地法第3条に基づく許可事務

1年間の処理件数		21	件	うち許可	21	件		
処理期間	実施状況	標準処理期間	申請書受理から	30	日	処理期間(平均)	26	日
	総会開催日の公表	公表している	していない	申請書締切日の公表	公表している	していない		

3 農地転用に関する事務(意見を付して知事への送付)

権限移譲の状況 (当てはまるものに○)		・農地法第4条第1項の規定に基づく指定市町村に指定							
		・地方自治法第252条の17の2第1項に基づき市町村長へ事務委任							
		・地方自治法第180条の2に基づき市町村長から農業委員会へ事務委任							
1年間の処理件数		10	件	うち許可相当	10	件	うち不許可相当	0	件
処理期間		標準処理期間	申請書受理から	20	日	処理期間(平均)	19	日	

4 違反転用への対応

現 状	管内の農地面積		年度末時点の違反転用面積	
	633	ha	0.05	ha
違反転用解消のために実施した活動内容	資材置場等に違反転用されており、いまだ全面撤去に至らない。農地の確保・有効利用を図る上での課題。今後も地元住民等との連携の下、重点的な監視活動が必要。			
実 績	違反転用解消面積	0.00	ha	

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 違反転用面積は、管内で農地法第4条第1項又は第5条第1項の規定に違反して転用されている農地の面積を記入

※3 活動内容は、違反転用の解消や早期発見・未然防止のために何月に何日何を行ったのか等について具体的に記入